

埼玉県, 群馬県, 栃木県, 新潟県, 山梨県) 8名 加算分5名
 中部地区(富山県, 石川県, 福井県, 長野県, 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県) 2名
 関西地区(大阪府, 京都府, 滋賀県, 和歌山県, 奈良県, 兵庫県, 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 香川県, 愛媛県, 徳島県, 高知県) 4名
 九州地区(山口県, 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県, 熊本県, 宮崎県, 鹿児島県) 3名

沖縄地区(沖縄県) 1名
 2. 監事は, 通常会員の中から2名互選される。
 3. 通常会員は, 理事および監事に立候補することができる。
 4. 他の通常会員によって書面により理事および監事に推薦され, かつそれを承認した通常会員は, 推薦候補となることができる。
 5. 理事および監事は, 立候補者および推薦者以外の通常会員からも選挙される。
 6. 理事および監事の選挙は, それぞれ種類別に連記する無記名文書投票とする。

第24期第11回常任理事会議事録

日時 昭和62年11月20日(金) 15:00~18:00
 場所 気象庁観測部会議室
 出席者 山元, 関口, 中村, 荒川, 村上, 重原, 能登, 山川, 浅井, 竹内, 河村

議題

A 被告事項

1. 第24期第4回理事会議事録の確認について一部修正のうえ確認された。
2. 昭和62年度日本気象学会臨時総会議事録の確認について原案のとおり確認された。

3. 各委員会報告

[庶務]

資料にもとづき報告があった。主なものは次のとおり。

- (1) 「第25回理工学における同位元素研究発表会」の論文募集要領の機関誌への掲載及び共催分担金の負担依頼。
- (2) 「日本学術会議だより」第7号の機関誌への掲載依頼。
- (3) 日本学術会議から昭和63年における学術研究集会等の開催予定についての調査依頼。
- (4) 「第10回風工学シンポジウム」の共催と運営委員会委員の推薦依頼。
- (5) 国会図書館に「予稿集」を寄贈することにした。

[会計]

資料にもとづき10月分の収支状況について報告があった。

[天気]

地方の編集委員との意見交換を行った。最近「天気」の論文のレベルが高くなって、地方からは投稿しにくくなってきたとの意見が出た。支部活動の活発化を図るため編集の一部を各支部持ち回りで担当することにした。その内容については地区編集委員に一任する。

[集誌]

来年第1号から英文校正を実施する。これに伴いページチャージも第1号から値上げする。

[気象研究ノート]

第160号を印刷中。第161号が年度内発行予定。

[講演企画]

昭和63年春季大会予稿集の原稿締切りを3月10日とし、3月11日に委員会を開いてプログラムの編成を行う。

また、「予稿集」は著作権が気象学会に帰属する旨を明記する。

[教育と普及]

「天気」11月号に普及講座が出る。これが最後となる。

かわって新シリーズ「気象談話室」を連載することになった。

〔国際学術交流〕

1988年2月15日～19日インドで開催される「熱帯の微気象と大気汚染に関する国際コンファレンス」に気象研究所木村富士男会員を派遣する。

1988年1月31日～2月5日にロサンゼルスで開催されるBjerknes教授記念「海洋-大気相互作用に関するシンポジウム」に出席する筑波大学川村隆一会員に出席補助を行う。

申請のあった気象研究所村上正隆会員の集会は1988年8月であるので次回（来年2月末日）の締切り以後審査を行う。

〔各賞〕

日産学術研究助成に3件、東レ科学技術研究助成に2件、気象学会内から応募があった。将来、もっと多数応募があった場合、気象学会内で推薦件数をしぼる必要が出てくる可能性がある。

B. 審議事項

1. 会員の新規加入について

個人会員中村祐二ほか18名の新規加入が承認された。

2. 昭和63年度予算及び事業計画案について

来年2月の最終案が決定するまで、引き続き検討していくことが了承された。

3. 第25期役員選挙管理委員会について

第25期役員選挙管理委員会を気象庁海洋気象部に依頼した経過の説明があり了承された。

また、多数の会員が役員に立候補するように広報活動（天気に掲載）を行うことが了承された。

4. 国際学術交流基金の募金活動の実施について

担当理事から募金活動の実行計画の説明があり、次の事項が了承されて早急に募金活動を行うこととなった。

- (1) 各支部に具体的にお願ひする。
- (2) 東京地域では常任委員会に小委員会を設け募金活動を行う。
- (3) 趣意書、説明書を印刷する。
- (4) 活動費（交通費、印刷費等）の計上。
- (5) 説明書の一部として国際学術交流の実績リストを添付する。

1988年11月にインドで開催される「モンスーン：理解と予報」に関する国際シンポジウム（インド熱帯気象研究所主催）を国際交流事業として共催することになった。また、スピーカーを派遣することになり、村上理事が候補者を推薦する。

5. 評議員会の開催について

検討の結果、開催日を来年1月18日～20日のいずれかの日を第1優先順位、次の週を第2優先順位として評議員の都合および会場の確保等を行うことが了承された。

6. 第14期日本学術会議会員候補者の選定手続きについて

担当理事から学術研究団体登録の結果及びその後の経過について説明があった。関連研究連絡委員会は地球物理、推薦人数は3名と決定した。事務上のミスにより、前期にくらべ推薦人の数が1名減ったことについて「天気」に謝罪文をのせることになった。

また、当学会における会員候補者と推薦人の選出については「天気」11月号にアナウンス、12月号に公示すること、昭和63年1月16日応募締切りとすることが決った。当学会の選考委員会の委員の人選は理事長に一任することが了承された。

7. 事務局体制の強化について

会員数、財政規模の増加による事務量の増大、国際学術交流やIAMAP招致等現在の2名の事務局員では十分に対応出来ない面があるので、事務局長（総長）を1名増員することについて財政面、候補者像など審議を行ったが、結論を得ず、継続審議となった。

8. 気象集誌の印刷方法について

従来の活版方式を変更してコンピュータ／レーザープリンターによって版下作成、印刷するという新しい方式で印刷した見本が示された。全理事に送付して賛否を問うことが了承された。

9. 委員の交替について

天気編集委員の交替（昭和63年1月1日から）が承認された。

旧 上田文夫（測候課）
新 大島広美（測候課）